

1 全国の動き

(1) 概観

平成27年8月26日発表の月例経済報告等により、我が国経済の最近の動向をみると、個人消費は、総じてみれば底堅い動きとなっている。住宅建設は、持ち直している。設備投資は、このところ持ち直しの動きがみられる。公共投資は、総じて弱い動きとなっている。輸出及び輸入は、このところ弱含んでいる。生産は、このところ横ばいとなっている。企業収益は、総じて改善傾向にある。また、企業の業況判断は、おおむね横ばいとなっているが、一部に改善の兆しもみられる。倒産件数は、おおむね横ばいとなっている。雇用情勢は、改善傾向にある。物価の動向をみると、国内企業物価は、このところ横ばいとなっている。消費者物価は、緩やかに上昇している。

株価（日経平均株価）は、20,000円台から20,800円台まで推移した後、18,500円台まで下落した。対米ドル円レートは、123円台から125円台まで円安方向に推移した後、120円台まで円高方向に推移した。短期金利についてみると、無担保コールレート（オーバーナイト物）は、おおむね0.07%台で推移した。ユーロ円金利（3か月物）は、0.1%台で推移した。長期金利は、0.4%台から0.3%台まで低下した。

こうしたことから最近の我が国の景気は、このところ改善テンポにばらつきもみられるが、緩やかな回復基調が続いている。

先行きについては、雇用・所得環境の改善傾向が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待される。ただし、中国経済をはじめとした海外景気の下振れなど、我が国の景気を下押しするリスクや金融資本市場の変動に留意する必要がある。

政府は、大震災からの復興を加速させるとともに、デフレからの脱却を確実なものとし、経済再生と財政健全化の双方を同時に実現していく。このため、「経済財政運営と改革の基本方針2015」、「『日本再興戦略』改訂2015」、「規制改革実施計画」及び「まち・ひと・しごと創生基本方針2015」を着実に実行する。好調な企業収益を、政労使の取組等を通じて、設備投資の増加や賃上げ・雇用環境の更なる改善等につなげ、地域や中小・小規模事業者も含めた経済の好循環の更なる拡大を実現する。経済の脆弱な部分に的を絞り、かつスピード感を持って、「地方への好循環拡大に向けた緊急経済対策」及びそれを具体化する平成26年度補正予算を迅速かつ着実に実行するとともに、平成27年度予算を円滑かつ着実に実施する。

日本銀行には、経済・物価情勢を踏まえつつ、2%の物価安定目標を実現することを期待する。

主な指標	指数等	前月（期）比	前年同月比
実質国内総生産（4～6月速報）	528兆円	▲0.4%	▲1.6%
鉱工業生産指数（6月確報）	98.3	1.1%	2.3%
鉱工業在庫指数（6月確報）	114.6	1.5%	4.0%
大型小売店販売額（6月確報）	16,412億円	（全店ベース）	0.6%
新設住宅着工戸数（6月）	88,118戸	22.9%	16.3%
国内企業物価指数（7月速報）	103.4	▲0.2%	▲3.0%
消費者物価指数（7月総合）	103.7	▲0.1%	0.2%
有効求人倍率（7月・季節調整値）	1.21倍	0.02%	0.11ポイント

※指数は、平成22年＝100

※鉱工業生産指数及び鉱工業在庫指数の前月（期）比は季節調整済指数、前年同月比は原指数のもの

(2) 国内需要

個人消費は、総じてみれば底堅い動きとなっている。家計調査でみると、実質消費支出は、二人以上の世帯では5月は前年同月比4.8%増の後、6月は同2.2%減となった。小売売上面からみると、6月の大型小売店（百貨店・スーパー等）販売額（確報値）は、1兆6,412億円で、前年同月比0.6%増（既存店は0.3%減）となった。全国百貨店販売額は、5月は前年同月比5.8%増（既存店は6.3%増）の後、6月は同0.2%減（既存店は0.4%増）となった。スーパー販売額は、5月は前年同月比6.5%増（既存店は4.8%増）の後、6月は同0.9%増（既存店は0.6%減）となった。耐久消費財の販売をみると、乗用車（軽を含む。）の新車新規登録台数は、6月が前年同月比3.8%減の後、7月（速報値）は同9.1%減となった。

住宅建設は、持ち直している。新設住宅着工戸数をみると、総戸数は5月に前年同月比5.8%増の後、6月は同16.3%増の88,118戸となり、内訳では持家が前年同月比7.2%増、貸家が同14.6%増、分譲住宅が同31.3%増などとなった。

設備投資は、このところ持ち直しの動きがみられる。「日銀短観」（6月調査）によれば、2015年度設備投資計画は、全産業では4年連続の増加、製造業で5年連続の増加、非製造業では4年ぶりの減少が見込まれている。設備過剰感は、製造業において依然として残るものの、改善傾向にある。また、「法人企業景気予測調査」（4～6月期調査）によれば、2015年度設備投資計画は、大企業製造業、大企業非製造業ともに増加が見込まれている。

公共投資は、総じて弱い動きとなっている。公共工事前払金保証事業統計（北海道建設業信用保証㈱、東日本建設業保証㈱、西日本建設業保証㈱調べ）で公共工事請負金額をみると、6月は1兆5,564億円で前年同月比1.8%減の後、7月は1兆4,632億円で同10.1%減となった。

(3) 生産・雇用

鉱工業生産の動きをみると、このところ横ばいとなっている。鉱工業生産指数（平成22年＝100、季節調整済）は、5月に97.2となった後、6月は98.3と前月比1.1%上昇（前年同月比、原指数2.3%上昇）となった。鉱工業生産者出荷指数は、5月に96.0となった後、6月は96.6と前月比0.6%上昇（前年同月比、原指数1.8%上昇）となった。鉱工業生産者製品在庫指数は、5月に112.9となった後、6月は114.6と前月比1.5%上昇（前年同月比、原指数4.0%上昇）となった。また、鉱工業生産者製品在庫率指数は、5月に115.4となった後、6月は113.5と前月比1.6%低下（前年同月比、原指数1.3%上昇）となった。

雇用情勢は、改善傾向にある。有効求人倍率（季節調整値）は、6月に1.19倍の後、7月は1.21倍となった。完全失業者数は、7月は222万人で、完全失業率（季節調整値）は、6月は3.4%

の後、7月は3.3%となった。

企業の動向をみると、企業収益は、総じて改善傾向にある。「日銀短観」(6月調査)によれば、2015年度の売上高は6年連続の増加、経常利益は小幅な減少が見込まれている。

こうした中で企業の業況判断をみると、おおむね横ばいとなっているが、一部に改善の兆しもみられる。「日銀短観」(6月調査)によれば、「最近」の業況は、全規模全産業では横ばいとなっているが、大企業非製造業等では改善した。9月時点の業況を示す「先行き」は、「最近」から横ばいとなった。各種調査によれば、企業の業況判断は、おおむね横ばいとなっている。また、「景気ウォッチャー調査」(7月調査)の企業動向関連DIによれば、現状判断は上昇したが、先行き判断は低下した。

(4) 物価

国内企業物価は、このところ横ばいとなっている。消費者物価は、緩やかに上昇している。国内企業物価指数(平成22年=100)は、6月は前月比0.2%下落(前年同月比2.4%下落)の後、7月は前月比0.2%下落(同3.0%下落)となった。7月の消費者物価指数(全国)をみると、総合指数は前月比0.1%下落(前年同月比0.2%上昇)となった。また、生鮮食品を除く総合指数は、前月と同水準(前年同月とも同水準)となった。次に、8月の動きを東京都区部中旬速報値でみると、総合指数は前月比0.2%上昇(前年同月比0.1%上昇)となった。また、生鮮食品を除く総合指数は、前月比0.1%上昇(前年同月比0.1%下落)となった。

(5) 金融・財政

最近の金融情勢をみると、長期金利は、おおむね0.4%台から0.3%台まで低下した。企業金融については、企業の資金繰り状況は改善傾向にある。社債と国債との流通利回りスプレッドは、総じて横ばいとなっている。株価(日経平均株価)は、20,000円台から20,800円台まで推移した後、中国株式市場の下落を発端に海外株式市場が下落したことなどを背景に、18,500円台まで下落した。

(6) その他の動き

6月の景気動向指数の概要(内閣府発表)

内閣府が8月24日に発表した「6月の景気動向指数(CI)」(改訂)によると、数か月先の景気の先行きを占う先行指数は106.5、景気の現況を示す一致指数は112.3、半年から1年遅行する遅行指数は115.6となった。

2 富山県の動き

(1)概況

本県経済をみると、個人消費は、一部に弱い動きがみられるが、総じてみれば底堅い動きとなっている。住宅建設は、持ち直しの動きがみられる。設備投資は、増加している。公共投資は、弱めの動きとなっている。生産は、このところ横ばいとなっている。雇用情勢は、改善が進んでいる。企業倒産の件数は一桁台に戻ったが、負債総額は前年同月に比べ増加している。消費者物価は、おおむね横ばいとなっている。以上のように最近の本県の景気は、一部に弱さもみられるが、緩やかな回復基調が続いている。

先行きについては、当面、一部に弱さが残るものの、雇用環境の改善や原油価格下落の影響、経済対策、新幹線開業効果などを背景に、緩やかに回復していくことが期待される。ただし、海外景気の下振れなど、景気を下押しするリスクや金融資本市場の変動に留意する必要がある。

県としては、当面、社会資本整備の推進、金融対策などの中小企業支援、離職者等を対象とした公共職業訓練の拡充等を内容とする経済・雇用対策に取り組むとともに、医薬・バイオなどの健康関連産業、環境・エネルギー関連産業、先端ものづくり産業の育成に向けたチャレンジに取り組むこととしている。

主な指標	指数等	前月（期）比	前年同月比
鉱工業生産指数（6月）	98.9	0.4%	▲ 0.1%
鉱工業在庫指数（6月）	126.5	0.9%	1.3%
大型小売店販売額（6月速報）	10,121百万円	（全店ベース）	2.9%
新設住宅着工戸数（6月）	749戸	97.6%	46.3%
消費者物価指数（7月・富山市）	104.1	0.5%	0.5%
有効求人倍率（7月・季節調整値）	1.50倍	0.04 ^ホ イント	0.12 ^ホ イント

※指数は、平成22年＝100

※常用雇用指数及び所定外労働時間指数は、規模30人以上の事業所

(2)個人消費

個人消費は、一部に弱い動きがみられるが、総じてみれば底堅い動きとなっている。大型小売店（百貨店・スーパー等）販売額をみると、5月は105億35百万円の後、6月（速報）は101億21百万円で前月比3.9%減（前年同月比2.9%増、既存店は前年同月比0.5%増）となった。また、耐久消費財の販売動向を乗用車（軽を含む。）の新車新規登録台数でみると、6月は3,845台で前年同月比2.9%減の後、7月は3,471台で同13.7%減となった。また、家計調査によると、4-6月期の平均消費支出（二人以上の世帯）は315,407円で前年同期比5.7%減となった。

(3)住宅建設

住宅建設は、持ち直しの動きがみられる。新設住宅着工戸数は、5月は総戸数379戸（前年同月比10.0%減）の後、6月は総戸数749戸（同46.3%増）となった。内訳をみると、持家は346戸で同4.4%減、貸家は246戸で同119.6%増、分譲住宅は157戸で同441.4%増などとなっている。

(4) 設備投資

設備投資は、増加している。日本銀行金沢支店「北陸3県企業短期経済観測調査」(26年6月調査)により、27年度設備投資計画をみると、全産業で前年度比46.1%増となった(ソフトウェア投資額を除く)。内訳は、製造業で前年度比43.8%増、非製造業で同48.4%増となった。

(5) 公共投資

公共投資は、弱めの動きとなっている。公共工事前払金保証事業統計(北海道建設業信用保証株、東日本建設業保証株、西日本建設業保証株調べ)で公共工事請負金額をみると、H27.5-H27.7月期の平均額は、135億80百万円で前年同期比30.0%減となった。

(6) 生産

鉱工業生産の動きをみると、このところ横ばいとなっている。鉱工業生産指数(平成22年=100、季節調整済)は、5月に98.5となった後、6月は前月比0.4%上昇の98.9(前年同月比0.1%低下)となった。業種別に動き(前月比)をみると、はん用・生産用・業務用機械工業、電気機械工業、金属製品工業など7業種が上昇し、繊維工業、化学工業、輸送機械工業など6業種が低下となった。鉱工業生産者製品在庫指数は、5月に125.4となった後、6月は前月比0.9%上昇の126.5(前年同月比1.3%増加)となった。業種別に動き(前月比)をみると、化学工業、窯業・土石製品工業など7業種が上昇し、鉄鋼業、繊維工業など6業種が低下となった。

(7) 雇用情勢

雇用情勢は、改善が進んでいる。月間有効求人数(パート含む。)は7月23,732人(前年同月比2.7%増)、月間有効求職者数(パート含む。)は7月16,238人(同5.6%減)となった。有効求人倍率(季節調整済)は、6月1.46倍の後、7月は1.50倍となった。常用雇用指数(平成22年=100、全産業:事業所規模30人以上)は、5月に98.6となった後、6月は99.0(前年同月比2.4%減)となった。所定外労働時間指数(製造業:事業所規模30人以上)をみると、5月に前年同月比0.3%増の後、6月は同7.7%増となった。現金給与総額は、事業所規模5人以上では、5月に254,266円(前年同月比0.7%減)となった後、6月は378,160円(前年同月比0.5%減)となった。

(8) 企業倒産

企業倒産は、件数は一桁台に戻ったが、負債総額は前年同月に比べ増加している。企業倒産(負債額1,000万円以上、東京商工リサーチ富山支店調)の状況をみると、6月に10件、負債総額3億91百万円(前年同月:4件、1億9百万円)の後、7月の件数は8件、負債総額15億5百万円(前年同月:9件、9億66百万円)となった。産業別では、建設業が2件、製造業が1件、卸売業が2件、小売業が1件、サービス業他が2件であった。破綻原因別では、運転資金の欠乏が2件、他社倒産の余波が1件、既往のシワ寄せが2件、販売不振が3件であった。

(9) 物価

消費者物価は、おおむね横ばいとなっている。富山市の消費者物価指数(平成22年=100)をみると、総合指数は、6月は103.6で前月比0.5%下落(前年同月比0.2%上昇)となった後、7月は104.1で前月比0.5%上昇(同0.5%上昇)となった。前月比0.5%上昇となった主な要因

としては、「食料」、「教養娯楽」などが上昇したため。また、生鮮食品を除く総合指数は103.3で、前月比0.3%上昇（同0.1%下落）、生鮮食品の指数は121.3で、前月比4.1%上昇（同11.5%上昇）となっている。

(10) その他の動き

① 工業の動き（6月～7月）

業種別	企業ヒアリングの特徴点
一般機械	自動車産業、航空機産業向けの軸受については、生産は横ばい、出荷は増加となっている。円安により、材料費価格が上昇している。現状は、堅調に推移している。見通しは、堅調となっている。
電子電気機械	電子機器等については、生産は減少となっている。現状は低調に推移している。半導体については、生産は減少となっている。現状は堅調に推移している。変圧器・配電盤については、生産は減少となっている。現状は堅調に推移している。
輸送機械	出荷は増加となっている。外国人観光客増に伴う新車需要が増加している。現状・見通しともに、堅調となっている。
金属製品	アルミニウム非建材製品、住宅規格商品については、生産、出荷ともに増加となっている。現状は、低調となっている。民生用包装容器については、生産、出荷ともに横ばいとなっている。現状は、堅調に推移している。
非鉄金属	生産、出荷ともに増加となっている。現状は堅調に推移し、見通しは、低調となっている。
鉄鋼	生産は増加、出荷は横ばいとなっている。現状は堅調に推移し、見通しは、低調となっている。

業種別	企業ヒアリングの特徴点
化学	基礎化学品、機能化学品、農業化学品については、生産は減少となっている。現状は堅調に推移している。医薬品については、生産は減少となっている。現状は堅調に推移している。
紙・パルプ 印刷紙器	生産・出荷ともに増加となっている。現状は低調に推移し、見通しは、低調となっている。
木材・木製品	需要については、国産材、北洋材ともに低調となっている。供給については、国産材、北洋材ともに荷動きは低迷している。価格については、国産材は弱含み、北洋材は横ばいで推移している。見通しは、国産材は低調、北洋材は横ばいとなっている。
プラスチック	通信機器用品、車両関連については、生産は増加、出荷は減少となっている。現状は低調に推移し、見通しは、低調となっている。家庭用品・工業部品については、生産は横ばい、出荷は減少となっている。現状は堅調に推移し、見通しは、堅調となっている。
情報サービス	受注は横ばいとなっている。価格競争は依然として厳しくなっている。現状・見通しともに堅調となっている。
繊維	生産、出荷ともに横ばいとなっている。テキスタイルは横ばいから微増で推移している。円安等により原材料価格が上昇したまま継続している。現状・見通しともに低調となっている。

② 労働市場（富山労働局職業安定課調）

7月の富山県の雇用失業情勢をみると、新規求人数（パート含む。）は9,514人で、前年同月比10.4%増となった。主要産業別に新規求人の動きをみると、製造業（14.8%）、卸売業、小売業（9.1%）、宿泊業、飲食サービス業（12.5%）、生活関連サービス業、娯楽業（50.8%）、医療、福祉（32.7%）等で増加し、建設業（▲6.9%）、運輸業、郵便業（▲3.8%）、サービス業（▲7.0%）等で減少した。

労働力需給の趨勢を有効求人倍率（季節調整値）でみると、7月は1.50倍となり、前月比0.04ポイント上昇、前年同月比で0.12ポイント上昇となった。

③ 近年の企業立地動向

区 分		22年	23年	24年	25年	26年
件数（件）	富山	13	13	12	15	16
	全国	777	856	938	831	1,021
敷地面積（ha）	富山	26	10	17	14	17
	全国	1,038	992	1,102	1,077	1,253

※ 富山は経産省「工場立地動向調査」と企業立地計画承認件数等の集計値。全国は経産省「工場立地動向調査」の値。

・ 主要企業用地の分譲状況

富山新港臨海工業用地 426.8ha（うち分譲済 414.0ha、分譲率 97.0%）

小矢部フロンティアパーク 12.7ha（うち分譲済 9.8ha、分譲率 77.2%）

・ 最近の主な立地企業（平成24年5月以降、増設を含む）

企 業 名		業 種	竣 工 操業開始 年 月
株スギノマシン（技術センター）	滑川市	ウォータージェット関連製品	24年5月
第一ファインケミカル株	高岡市	医薬品	24年7月
日医工株（ピラミッド棟）	滑川市	医薬品	25年3月
株マイテック	富山市	タッチパネル部品	25年4月
株ウーケ富山入善工場	入善町	食料品（無菌包装米飯）	25年4月
富士化学工業株	上市町	医薬品	25年4月
武内プレス工業株	滑川市	医薬品用アルミチューブ	25年5月
大和薬品工業株	富山市	医薬品	25年5月
エヌアイシ・オートテック株	立山町	産業用アルミフレーム・システム	26年1月
アクティブファーマ株	富山市	医薬品	26年5月
株日立物流	上市町	物流センター	26年6月
株富山村田製作所	富山市	電子部品	26年7月
株陽進堂（第2研究棟）	富山市	医薬品	26年8月
株ウイン・ディー（第2工場）	高岡市	工業用模型	26年10月
森精工株	高岡市	精密板金加工	26年11月
ダイト株（高薬理製剤棟）	富山市	医薬品	26年12月
シロウマサイエンス株	入善町	プラスチック容器	26年12月
株オプテス 北陸工場 氷見製造所	氷見市	液晶テレビ用フィルム	27年1月
株石金精機	富山市	航空機部品	27年1月
東亜薬品株	富山市	医薬品	27年2月
ユースキン製薬株	富山市	医薬品	27年2月
富山化学工業株	富山市	医薬品	27年2月
株ハシモト	富山市	ランドセル	27年3月
株プレステージ・インターナショナル	射水市	コールセンター	27年4月
テイカ製薬株（品質管理施設）	富山市	医薬品	27年5月
中越パルプ工業株 高岡工場（実証施設）	高岡市	セルロースナノファイバー	27年5月
十全化学株（原薬工場棟）	富山市	医薬品	27年7月
株陽進堂（原薬工場棟）	富山市	医薬品	27年7月
YKK AP株（アルミ押し出し工場棟）	黒部市	アルミ押出形材	27年8月